

# 西三里塚第2代替地 埋蔵文化財調査報告書1

-成田市西三里塚所在馬土手-

平成16年3月

新東京国際空港公団  
財団法人 千葉県文化財センター

# 西三里塚第2代替地 埋蔵文化財調査報告書1

にしさんりづか  
－成田市西三里塚所在馬土手－



## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県文化財センター調査報告第478集として、新東京国際空港公団の西三里塚第2代替地の造成事業に伴って実施した成田市西三里塚所在馬土手の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査では、佐倉七牧の1つ取香牧の馬土手を明らかにするなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たりこの報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成16年3月25日

財団法人千葉県文化財センター  
理 事 長 清 水 新 次

## 凡　例

- 1 本書は、新東京国際空港公団による西三里塚第2代替地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第1冊目である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県成田市西三里塚245-1ほかに所在する西三里塚所在馬土手（遺跡コード211-063）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、新東京国際空港公団の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は、本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、上席研究員 西口 憲が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、新東京国際空港公団、成田市教育委員会ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。  
第1図 国土地理院発行 1/50,000地形図「成田」(NI-54-19-10)  
第2図 第1師管地方迅速図 明治14年測量 1/20,000「成田村」を基に加筆を行った。
- 8 周辺航空写真は、京葉測量株式会社による平成13年撮影のものを使用した。
- 9 基準点測量及び地形測量は日本測地系に基づいて行われた。
- 10 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

## 本文目次

第1章はじめに .....	1
第1節 調査の概要 .....	1
1 調査の経緯と経過 .....	1
2 調査の方法 .....	1
第2節 遺跡の位置と環境 .....	1
第2章西三里塚所在馬土手の調査 .....	4
第1節 繩文時代～奈良・平安時代 .....	4
1 遺物 .....	4
第2節 中・近世 .....	4
1 馬土手（A区） .....	6
2 馬土手（B区） .....	11
3 馬土手（C区） .....	14
第3章まとめ .....	17
報告書抄録 .....	28

## 挿図目次

第1図 西三里塚所在馬土手位置図 .....	2
第2図 西三里塚所在馬土手位置図 .....	3
第3図 西三里塚所在馬土手周辺地形図 .....	5
第4図 西三里塚所在馬土手（A区）地形測量図及び発掘区範囲図 .....	7
第5図 西三里塚所在馬土手（A区）1号トレンチ内検出遺構平面及びセクション図 .....	8
第6図 西三里塚所在馬土手（A区）2号トレンチ内検出遺構平面及びセクション図 .....	8
第7図 西三里塚所在馬土手（A区）3号トレンチ内検出遺構平面及びセクション図 .....	10
第8図 西三里塚所在馬土手（B区）南側4～5号トレンチ内検出遺構平面及びセクション図、地形測量図 .....	12
第9図 西三里塚所在馬土手（B区）北側6号トレンチ内検出遺構平面及びセクション図、地形測量図 .....	13
第10図 西三里塚所在馬土手（C区）7号トレンチ内検出遺構平面及びセクション図、地形測量図 .....	15
第11図 西三里塚所在馬土手出土遺物実測図 .....	16

## 図版目次

- 図版1 航空写真
- 図版2 馬土手（A区）調査前風景 南から、馬土手（A区）調査前風景 北から、馬土手（B区）調査前風景 南から
- 図版3 馬土手（B区）調査前風景 北から、馬土手（C区）調査前風景 南から、馬土手（C区）調査前風景 北から
- 図版4 馬土手（A区）1号トレンチセクション南壁、馬土手（A区）1号セクション溝（東側）全景、馬土手（A区）1号トレンチ道路状遺構、溝（東側）全景
- 図版5 馬土手（A区）1号トレンチ溝（西側）全景、馬土手（A区）2号トレンチセクション（南壁）、馬土手（A区）2号トレンチ溝（東側）全景
- 図版6 馬土手（A区）2号トレンチ溝（西側）全景、馬土手（A区）3号トレンチセクション（北壁）、馬土手（A区）3号トレンチセクション（北壁）
- 図版7 馬土手（A区）3号トレンチ溝（東側）道路状遺構全景、馬土手（A区）3号トレンチ溝（西側）全景、馬土手（B区）4号トレンチ溝全景
- 図版8 馬土手（B区）4号トレンチセクション、馬土手（B区）5号トレンチセクション（東側）、馬土手（B区）5号トレンチセクション（西側）
- 図版9 馬土手（B区）5号トレンチセクション、馬土手（B区）6号トレンチセクション、馬土手（C区）7号トレンチセクション
- 図版10 西三里塚所在馬土手 出土遺物写真

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 調査の経緯と経過

財団法人千葉県文化財センターでは、新東京国際空港予定地内及び関連事業地内に所在する遺跡について、千葉県教育委員会の指導のもと、新東京国際空港公団の委託により、昭和51年度から計画的・継続的に発掘調査を実施してきている。また、これらの発掘調査成果の一部は既に多数の報告書として刊行されているところである。

今回報告する西三里塚所在馬土手は、西三里塚に第2代替地が計画されたため、千葉県教育委員会と新東京国際空港公団との間で取り扱いについて協議した結果、造成地内に所在する馬土手3,400m<sup>2</sup>の発掘調査を実施する運びとなった（第1図～第3図）。なお、馬土手以外の西三里塚遺跡の発掘調査については平成15年度中に終了する予定である。

西三里塚所在馬土手の発掘調査と整理作業の期間及び調査体制は以下のとおりである。

#### 平成14年度

期 間	平成14年4月16日～平成14年4月30日
組 織	東部調査事務所長 折原 繁
	担当職員 空港調査室長 横山 仁
内 容	発掘作業（西三里塚所在馬土手）
	上層 216m <sup>2</sup> /3,400m <sup>2</sup> （確認調査）

#### 平成15年度

期 間	平成15年12月1日～平成15年12月26日
組 織	東部調査事務所長 折原 繁
	担当職員 上席研究員 西口 徹

内 容 整理作業 水洗・注記～報告書刊行

### 2 調査の方法

西三里塚所在馬土手の対象範囲全域に、馬土手に近接して任意の公共座標杭を起点とし、数十m毎に比較的残りの良い地点を選び幅2m程（遺構の続き具合により拡張トレンチを設定）の土層観察用のトレンチを設定して調査を行った。調査地点をA～C区に分けて各地点で1か所～3か所のトレンチを設定した。

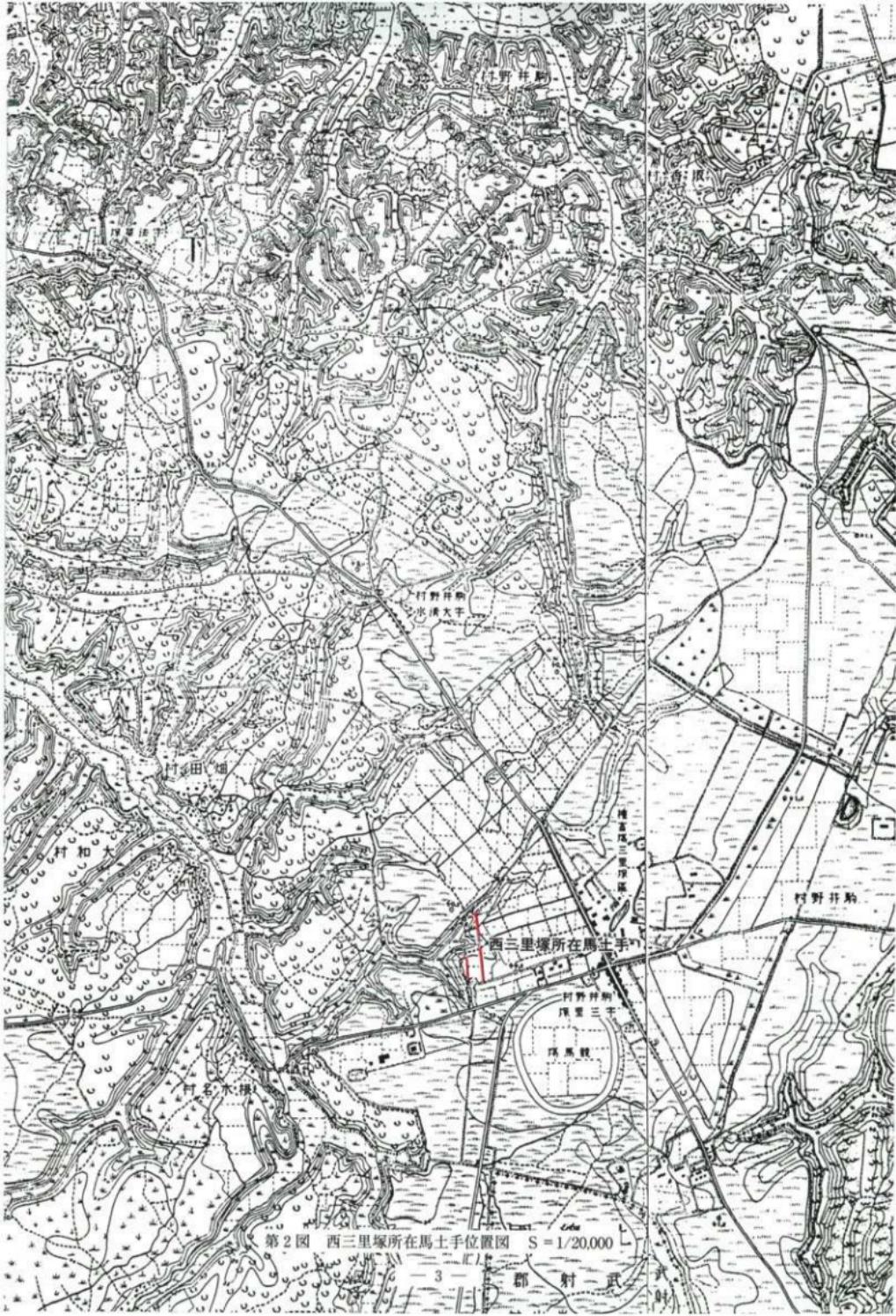
## 第2節 遺跡の位置と環境（第1図）

馬土手のある成田市は、南は富里市、南東に芝山町、東は多古町、北は大栄町・下総町、西は栄町、本埜村・印旛村に接している。下総台地の東部に位置し、北辺部は栗山川水系の高谷川や木戸川の水源となり、両河川は北西から南東に向かって流れ、九十九里海岸平野を経て太平洋に注いでいる。事業地は新東京国際空港のすぐ西南側に位置し、空港を境に芝山町と接する。事業地近辺には今回調査した佐倉七牧の一つである取香牧に関連した馬土手関連の遺構等が多く見られる。

今回調査を行った西三里塚所在馬土手は成田市西三里塚245-1ほかに所在する。栗山川水系の根木名川支流の標高36m～40mの台地上及び斜面部に位置する。



第1図 西三里塚所在馬土手位置図 S = 1/50,000 新井田



第2図 西三里塚所在馬土手位置図 S = 1/20,000

## 第2章 西三里塚所在馬土手の調査

### 第1節 縄文時代～奈良・平安時代

今回の調査は馬土手本体を対象とした。確認調査の範囲内では馬土手築造以前の縄文時代～奈良・平安時代の遺構は、全く検出されなかった。馬土手の盛り土中より当該時期の土器片と石器が少量検出されている。

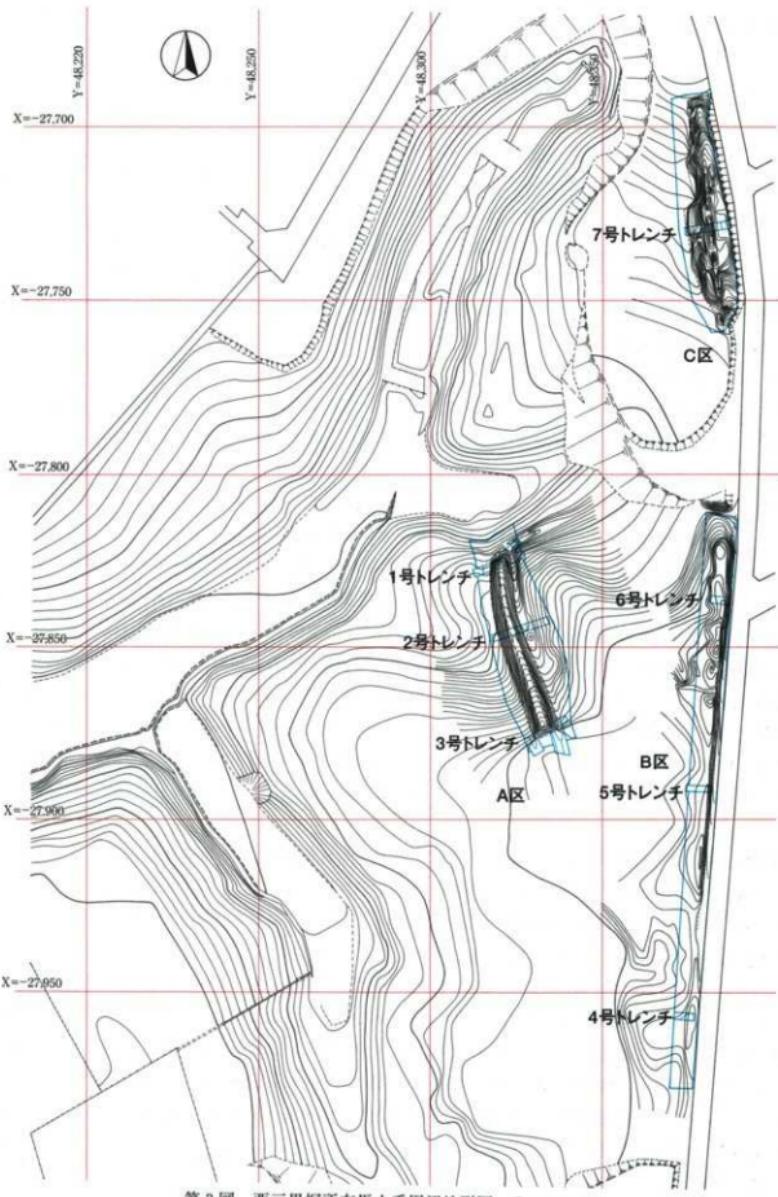
#### 1 遺物

馬土手盛り土等出土遺物（第11図1～7、図版10）縄文時代の遺物は馬土手の盛り土中及び調査区から検出された溝などの覆土中から少量出土している。最も多くの遺物が分布していたのはA区の3号トレンチである。1は3号トレンチ内より検出された縄文時代早期Ⅲ類の茅山式土器の底部に近い破片である。土器表面には条痕が見られる。胎土には纖維が混入されている。2は3号トレンチ内より検出された縄文時代後期加曾利B式土器の胴部破片で表面は磨り消し縄文で覆われている。3は1号トレンチ内より検出された弥生時代中期の壺形土器あるいは甕の破片である。縄文を地文にして直線的な沈線で区画されている。この破片以外に同じ時期のものは見られない。これらの他に奈良・平安時代の土器の破片が少量見られた。

4は6号トレンチのⅡb層中から検出された縄文時代のものと思われる黒曜石の石核である。大形の剥片素材を石核として、より小さな剥片を剥離したものと思われる。打面には打撃時に付けられたものと思われるコーンが顕著に残されている。全長3.56cm、幅3.29cm、厚み1.78cm、重量15.56gである。石材は、茶色の鉄分が網目模様に貫入していて透明度がなく黒味の強い黒曜石である。5は3号トレンチの溝の覆土から検出された縄文時代の石鎚である。凹基盤で片側の脚部が欠損している。剥片素材を使用して両面とも周辺部より中程に向かって細かく丁寧に仕上げてあり、仕上がりは非常に薄いものとなっている。全長2.17cm、幅1.64cm、残厚み0.23cm、残重量0.51gである。石材は比較的透明度の強い黒曜石である。6は3号トレンチ内の溝の覆土中より検出された小剥片である。綫長の剥片で全長1.94cm、幅0.99cm、厚み0.23cm、重量0.33gである。石材は灰色がかった珪質頁岩で縄文時代のものと思われるが、旧石器時代の遺物の可能性もある。背面の剥離面の規格性が乏しく、細石刃とは違うと思われる。7は3号トレンチ内で検出された、縄文時代のものと思われる横長の小剥片である。背面に原礫面を残す厚みのあるものである。全長1.15cm、幅2.33cm、厚み1.09cm、重量1.70gである。石材は黒味が強く不透明な黒曜石である。

### 第2節 中・近世

今回の調査は馬土手の3,400mが対象である。対象となる馬土手は第3図で見られるように左側の谷に向かって伸びていく1条と右側の台地上を南北に伸びていき、途中谷の部分で途切れ、さらに北側に伸びていく1条の合計2条からなる。第2図の明治時代の陸軍の迅速図においても右側の馬土手は谷の入り込む部分でなくなっていた可能性は高い。第3図に見られるように西側の約65mの調査区をA区（第4図）、東側の南の約160m部分をB区（第8・9図）、北側の約70m部分をC区（第10図）と呼称して以下の説明を行う。なお、馬土手使用時と同時期の遺物については全く確認できなかった。



第3図 西三里塚所在馬土手周辺地形図 S = 1/1,500

## 1 馬土手（A区）

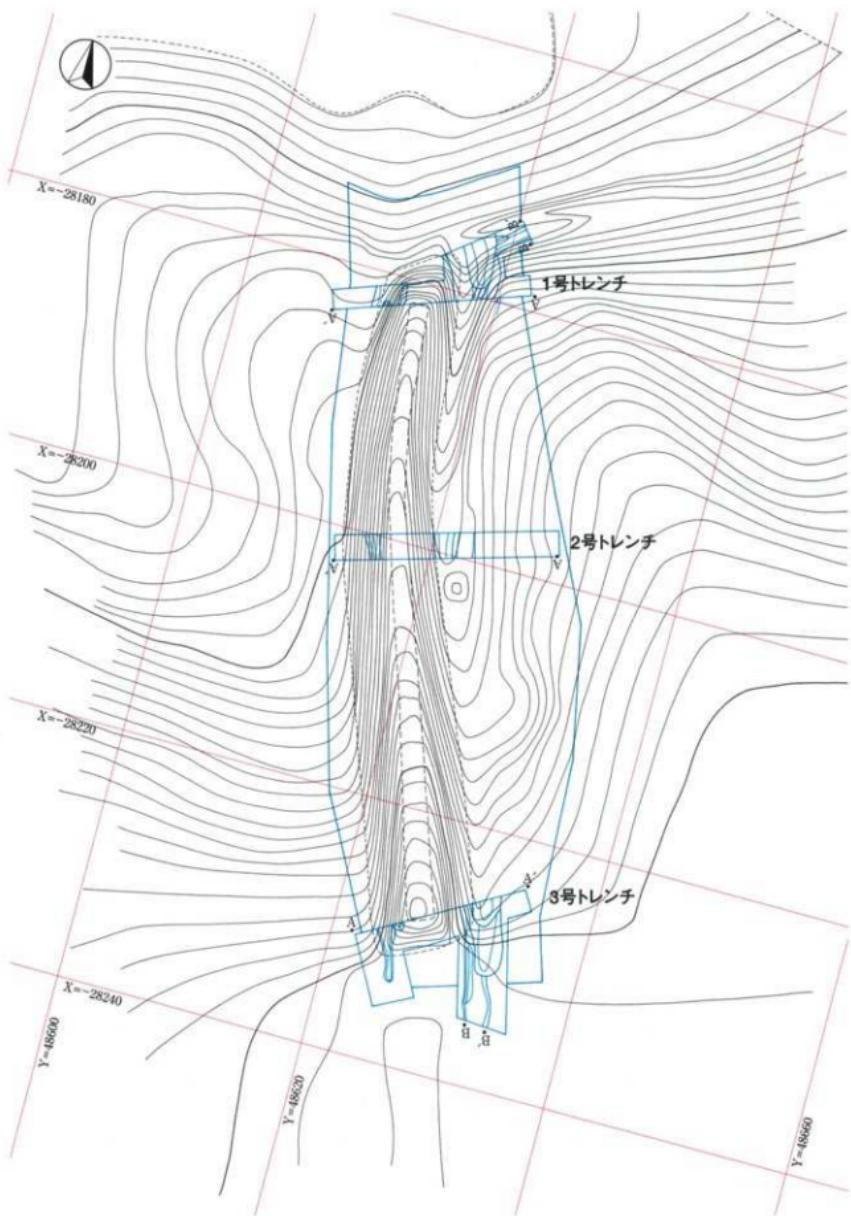
1号トレーニング（第5図） 馬土手の北端部に位置する。馬土手はA区の北側で台地の斜面部に直交する形で消失している。なお、A区の南側では元々馬土手が伸びていた可能性は高い。南端部分での馬土手の本体の幅はおよそ4.5mで、高さは地山から測ると最大2.0mである。第5図で見られるように土手本体の東側に幅約2.0m、深さ約0.8mの002号溝が検出されている。この溝は底面の幅は狭く壁がやや斜めに立ち上がる。北側では谷に向かって急に落ち込んでしまう。

また、西側の001号溝は幅約2.5m、深さは平らな部分で約0.4m、中央のピット部分で約1.0mである。ピット部分の径は約0.6mである。連続した柱穴列になるかどうかは不明である。底面の幅が広く比較的浅い断面形から道としての使用も考えられる。なお、003号道路状構造についても谷に沿って細く成形された近世以降の道になると考えられる。

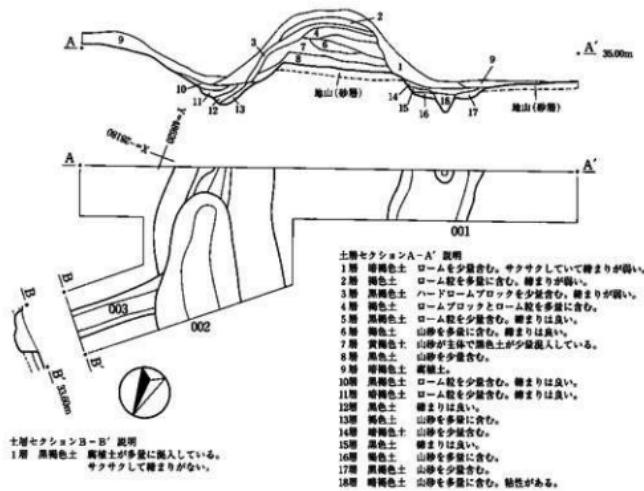
馬土手本体及び001号～002号溝については一連の施設と捉えられるため同じ土層セクションA-A'で説明する。1層はソフトロームを少量含み、サクサクとして締まりが弱い暗褐色土である。腐植化が進み肩部では流失が著しい。2層はソフトローム粒を多量に含み、締まりが弱い褐色土である。3層はハードロームブロックを少量含み、締まりが弱い黒褐色土である。4層はロームブロックとローム粒を多量に含む褐色土である。5層はローム粒を少量含み、締まりの良い黒褐色土である。6層は山砂を多量に含み、締まりが良い褐色土である。7層は山砂が主体で黒色土が少量混入している黄褐色土である。8層は山砂を少量含む黒色土である。9層～13層は002号溝（野馬堀か？）に伴うセクションである。9層は腐植化の進んだ暗褐色土である。10層はローム粒を少量含み、締まりの良い黒褐色土である。11層はローム粒を少量含み、締まりの良い暗褐色土である。12層は締まりの良い黑色土である。確認はないが宝永火山灰層が挟まっている可能性が高い。13層は山砂を多量に含む褐色土である。14層～18層は001号溝（横列を伴う道路状構造か？）に伴うセクションである。14層は山砂を少量含む暗褐色土である。15層は締まりの良い黑色土である。12層と同様に宝永火山灰が挟まっている可能性が高い。16層は山砂を多量に含む褐色土である。17層は山砂を少量含む黒褐色土である。18層は山砂を多量に含み、粘性がある暗褐色土である。盛り土の特徴は基盤層の山砂層を多く使用していることにある。

2号トレーニング（第6図） A区の1号トレーニングより南東方向約20mのところに位置する。001号～002号溝はやや浅く、幅も細くなった感じであるが連続して掘削されていると思われる。馬土手本体は北側の先端部より残りは良く、地山層より2.3m程の高さにまで達している。1号トレーニングのセクション部分と比べると001号溝は何度か埋め戻したようにも見える。

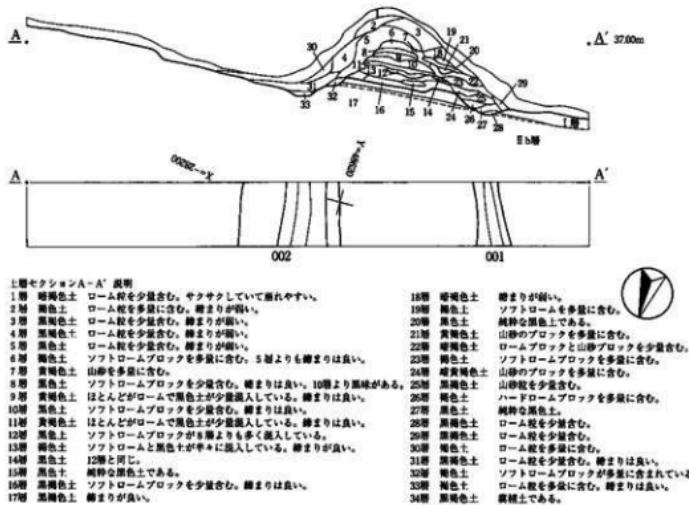
1号トレーニングと同様に馬土手本体及び001号～002号溝については一連の施設と捉えられるため同じ土層セクションA-A'で説明する。なお、1号トレーニング部分のように溝と馬土手部分の境がはっきりしないため一連の土層とする。1層はローム粒を少量含み、サクサクして崩れやすい暗褐色土である。2層はローム粒を多量に含み、締まりが弱い褐色土である。3層はローム粒を少量含み、締まりが弱い黒褐色土である。4層はローム粒を少量含み、締まりが弱い黒褐色土である。5層はローム粒を少量含み、締まりが弱い黑色土である。6層はソフトロームブロックを多量に含み、5層よりも締まりが良い褐色土である。7層は山砂を多量に含む黄褐色土である。8層はソフトロームブロックを少量含み、締まりが良く、10層



第4図 西三里塚所在馬土手（A区）地形測量図及び発掘区範囲図（1～3号トレンチ） S=1/400



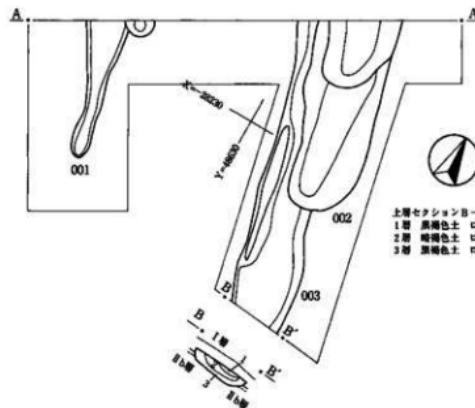
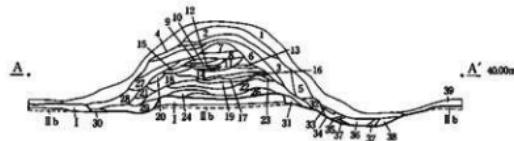
第5図 西三里塚所在馬土手（A区）1号トレント内検出造構平面及びセクション図 S=1/160



第6図 西三里塚所在馬土手（A区）2号トレント内検出造構平面及びセクション図 S=1/160

より黒味がある黒色土である。9層はほとんどがロームで、黒色土が少量混入して締まりが良い黄褐色土である。10層はソフトロームブロックを少量含み、締まりが良い黒色土である。11層はほとんどがロームで、黒色土が少量混入して締まりが良い黄褐色土である。12層はソフトロームブロックが8層よりも多く混入している黒色土である。13層はソフトロームと黒色土が半々で混入していて、締まりが良い褐色土である。14層は12層と同じ黒色土である。15層は純粋な黒色土である。16層はソフトロームブロックを少量含み、締まりが良い黒褐色土である。17層は締まりが良い黒褐色土である。18層は締まりが弱い暗褐色土である。19層はソフトロームを多量に含む褐色土である。20層は純粋な黒色土である。21層は山砂のブロックを多量に含む黄褐色土である。22層はロームブロックと山砂ブロックを少量含む暗褐色土である。23層はソフトロームブロックを多量に含む褐色土である。24層は山砂のブロックを多量に含む暗黄褐色土である。25層は山砂粒を少量含む黒褐色土である。26層はハードロームブロックを多量に含む褐色土である。27層は純粋な黒色土である。28層はローム粒を少量含む黒褐色土である。29層はローム粒を少量含む黒褐色土である。30層はローム粒を多量に含む褐色土である。31層はローム粒を少量含み、締まりが良い黒褐色土である。32層はソフトロームブロックが多量に含まれる褐色土である。33層はローム粒を多量に含み、締まりが良い褐色土である。34層は腐植土の黒褐色土である。盛り土の特徴は西側の001号溝側が埋まつた後に土手の厚みを増すように再構築している点である。長期間、土手を使用したことが窺われる。

3号トレンチ（第7図） A区の2号トレンチより南東方向約40mのところに位置する。001号溝は現状の土手本体の据ぎりぎりに位置し、埋土の状況から判断すると、柱穴列より新しい時期に土手を拡張し、それ以降外側に道路状の溝が自然に形成されたように思われる。東側の002号溝は深さ0.4m、幅2.5m程で南側に向かって自然に上がっていったため、現状では削平されて消失していたと思われる。003号道路状造構は近世以降に溝に沿って形成された道路と思われ、硬化面が検出されている。1号トレンチと同様に馬土手本体及び001号～002号溝については一連の施設と捉えられるため同じ土層セクションA-A'で説明する。なお、1号トレンチ部分のように溝と馬土手部分の境がはっきりしないため一連の土層とする。1層は表土で、ロームブロックを含み、サクサクとしていて締まりが弱い暗褐色土である。2層はローム粒を少量含み、締まりが弱いが1層よりは強い暗褐色土である。3層はローム粒を少量含み、締まりが弱い黒褐色土である。4層はローム粒を少量含み、締まりが弱い暗褐色土である。5層はローム粒を少量含み、締まりが弱い暗褐色土である。6層はローム粒を少量含み、締まりが弱い黒褐色土である。7層はローム粒を多量に含み、締まりが弱い褐色土である。8層はソフトロームを少量含み、締まりが良い黒褐色土である。9層はローム粒を多量に含み、締まりが良い褐色土である。10層はソフトロームブロックを少量含み、締まりが良い黒色土である。11層はソフトロームとハードロームブロックが主体で、黒色土が少量含まれる黄褐色土である。12層はソフトロームブロックを少量含む黒色土である。13層はロームブロックが主体で、締まりが良い黄褐色土である。14層はソフトロームを少量含み、締まりが良い黒褐色土である。15層はローム粒を少量含む黒色土である。16層はハードロームブロックが主体で、黒色土が少量含まれる黄褐色土である。17層はロームブロックを少量含む黒色土である。18層は純粋な黒色土である。19層はロームが主体で、黒色土が少量含まれ、締まりが良い黄褐色土である。20層はローム粒を少量含む暗褐色土である。21層はソフトロームを若干含む黒褐色土である。22層はソフトロームブロックを少量含み、締まりが良い黒色土である。23層はローム粒を少量含む黒色土である。24層はハードロームブロックとソ



上層セクションB-B' 説明  
1層 黄褐色土 ローム粒を少量含む。  
2層 黄褐色土 ローム粒を多量含む。地土粒を少量含む。  
3層 黄褐色土 ローム粒を多量含む。地土粒を多量含む。締まりは悪い。

- 下層セクションA-A' 説明  
1層 姫褐色土 黒土。ロームブロックを含む。サクサクしていくと締まりが悪い。  
2層 姫褐色土 ローム粒を少量含む。締まりは悪いが、1層よりは良い。  
3層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。締まりは悪い。  
4層 姫褐色土 ローム粒を少量含む。締まりは悪い。  
5層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。締まりは悪い。  
6層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。締まりは悪い。  
7層 黑褐色土 ローム粒を多量含む。締まりは悪い。  
8層 黑褐色土 ソフトロームを少量含む。締まりは良い。  
9層 黑褐色土 ローム粒を多量含む。締まりは良い。  
10層 黑褐色土 ソフトロームブロックを少量含む。締まりは良い。  
11層 黑褐色土 ソフトロームブロックとハーフロームブロックが主体で、黒色土が少量含まれる。  
12層 黑褐色土 ソフトロームブロックを少量含む。  
13層 黑褐色土 ロームブロックが主体である。締まりは良い。  
14層 黑褐色土 フィルムシルトを少量含む。締まりは良い。  
15層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。  
16層 黑褐色土 ドーム状ブロックが主体で黒色土が少量含まれる。  
17層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。  
18層 黑褐色土 地下水位土である。  
19層 黑褐色土 ロームが主体で黒色土が少量含まれる。締まりは良い。  
20層 姫褐色土 ローム粒を少量含む。

- 21層 黑褐色土 ソフトロームを若干含む。  
22層 黑褐色土 ソフトブロックを少量含む。締まりは良い。  
23層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。  
24層 黄褐色土 ハーフロームブロックとソフトロームブロックを多量に含む。  
25層 黄褐色土 ハーフロームブロックを少量含む。  
26層 黄褐色土 ロームブロックを少量含む。  
27層 黄褐色土 ロームブロックを少量含む。  
28層 黄褐色土 ローム粒を少量含む。  
29層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。  
30層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。土とピットの色調が同じで区別がつかない。  
31層 黄褐色土 ソフトロームブロックを少量含む。  
32層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。  
33層 黑褐色土 締まりは弱い。  
34層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。  
35層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。極く締まっている。(道路路の硬化面)  
36層 黑褐色土 締まりが良い。  
37層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。  
38層 黑褐色土 ローム粒を少量含む。  
39層 黑褐色土 黒土。

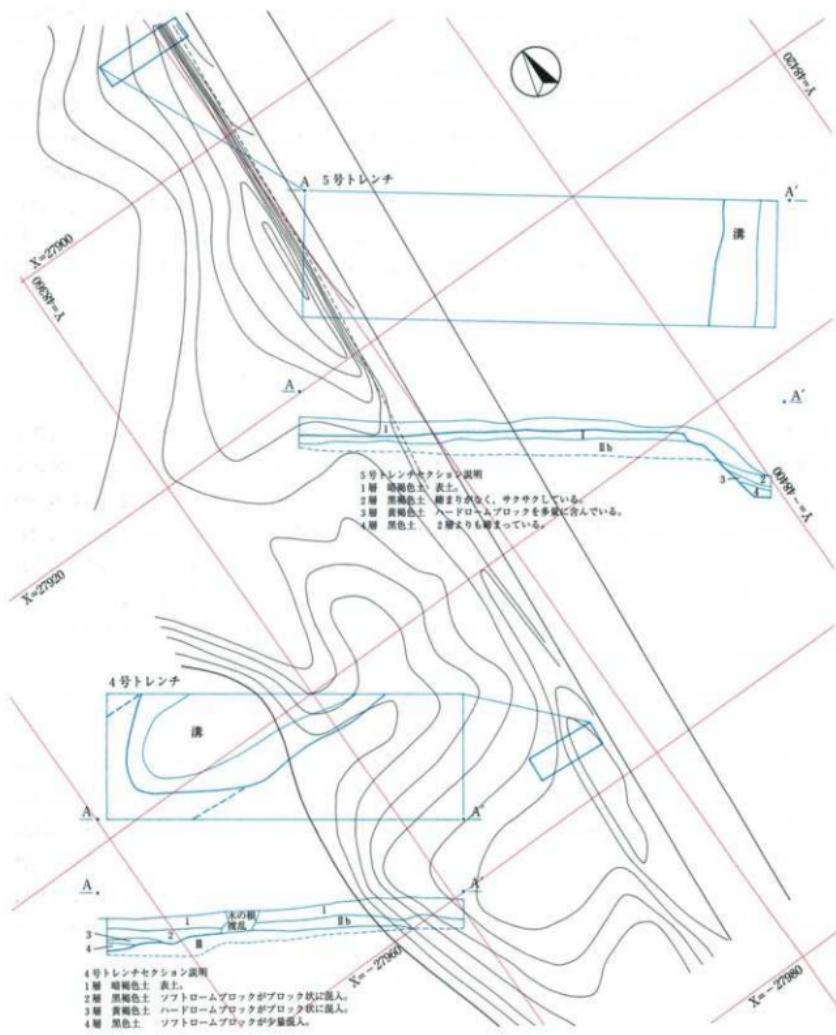
第7図 西三里塚所在馬土手（A区）3号トレンチ内検出遺構平面及びセクション図 S=1/160

フトロームブロックを多量に含む黄褐色土である。25層はロームブロックを少量含む暗褐色土である。26層はロームブロックを少量含む暗褐色土である。27層はロームブロックを少量含む暗褐色土である。28層はローム粒を少量含む黒褐色土である。29層はローム粒を少量含み、溝とビットの色調が同じで区別がつかない黒色土である。時期的には宝永火山灰層を挟んでいる可能性がある。30層はソフトロームブロックを少量含む暗褐色土である。31層はソフトロームブロックを少量含む暗褐色土である。32層はロームブロックを多量に含む褐色土である。33層は締まりが弱い黒色土である。34層はローム粒を少量含む暗褐色土である。35層はローム粒を多量に含み、硬く締まっている褐色土である。36層は締まりが良い暗褐色土である。37層はローム粒を少量含む黒褐色土である。38層はローム粒を少量含む暗褐色土である。39層は腐植土が主体の暗褐色土である。A区の1号トレンチ～3号トレンチを見る限りこの範囲での馬土手の遺存状況は良いと思われるが、迅速図（第2図）を見る限り、明治14年の時点ではまだ南側に伸びて台地の縁に沿って繋がっていくようにも思われる。003号道路状遺構が伸びていく様子からもそう判断して良いかと思われる。

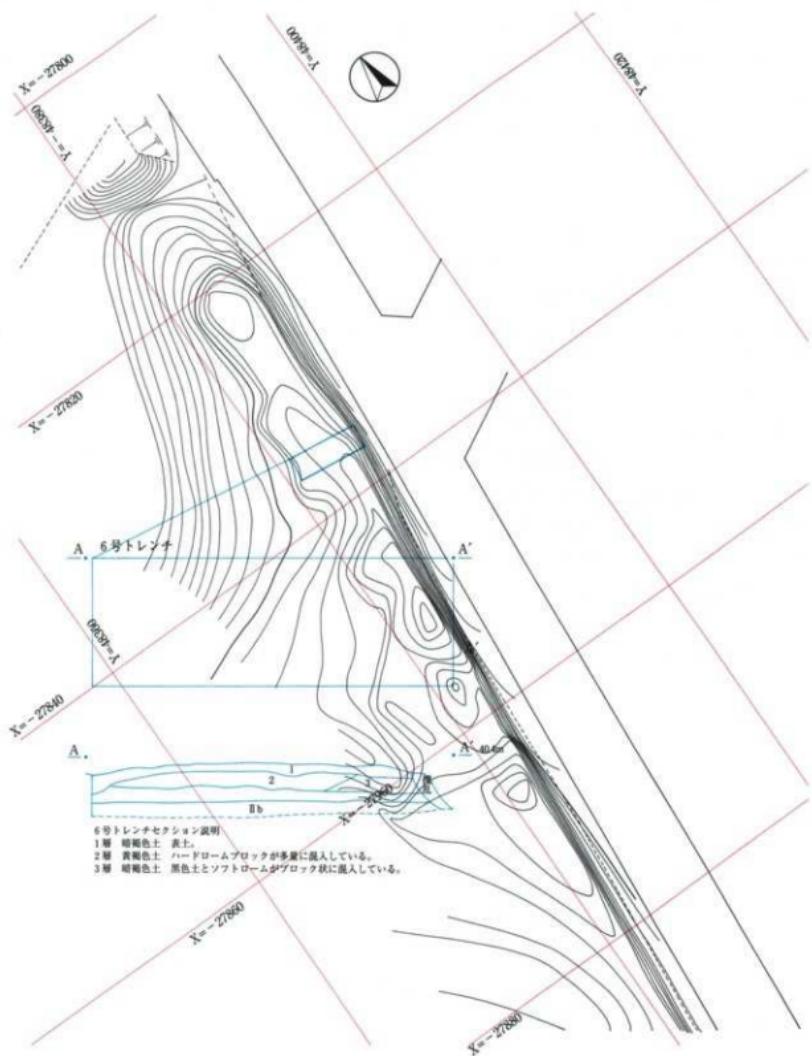
## 2 馬土手（B区）

4号トレンチ（第8図下） B区の最も南側に位置するトレンチである。トレンチ内を浅いレベルで溝が南北～北東方向へ検出されているが、迅速図（第2図）から判断すると明治時代以降の道という判断が妥当だと思われる。断面を見る限りでは馬土手の西側の柵列を伴う浅い溝、もしくは道路状遺構の名残が僅かな傾斜として認められるのみである。馬土手本体は明治時代以降に削平されて消失してしまったと思われる。セクションA-A'の1層は表土で暗褐色土である。これらは馬土手の本体部分を壊して埋められた土と思われる。2層～4層まではあるいは馬土手に伴う溝もしくは道路状遺構の覆土部分である。2層はソフトロームブロックをブロック状に含む黒褐色土である。3層はハードロームブロックをブロック状に含む黄褐色土である。4層はソフトロームブロックを少量含む黒色土である。

5号トレンチ（第8図上） B区4号トレンチの北西70m程に位置するトレンチである。4号トレンチと同様に馬土手本体が全く消失している。トレンチの北東側に深さ1.5m以上、幅2.0m以上（北東にさらに広がっていたと思われる。）の規模で溝（この深さからといわゆる野馬堀と呼ばれる堀であった可能性が高い）が見られる。セクションA-A'の1層は表土で暗褐色土である。この一部が溝の中に流れ込んでいることから考えると溝自体が意外と深く掘り込まれ、現道下に遺存しているものと思われる。2層～4層にかけてはプライマリーな溝の土層と思われる。2層は締まりがなく、サクサクとしている黒褐色土である。3層はハードロームブロックを多量に含んでいる黄褐色土である。4層は2層よりも締まりの良い黒色土である。



第8図 西三里塚所在馬土手（B区）南側 4～5号トレンチ内検出遺構平面及びセクション図  $S = 1/160$ ,  
地形測量図  $S = 1/400$

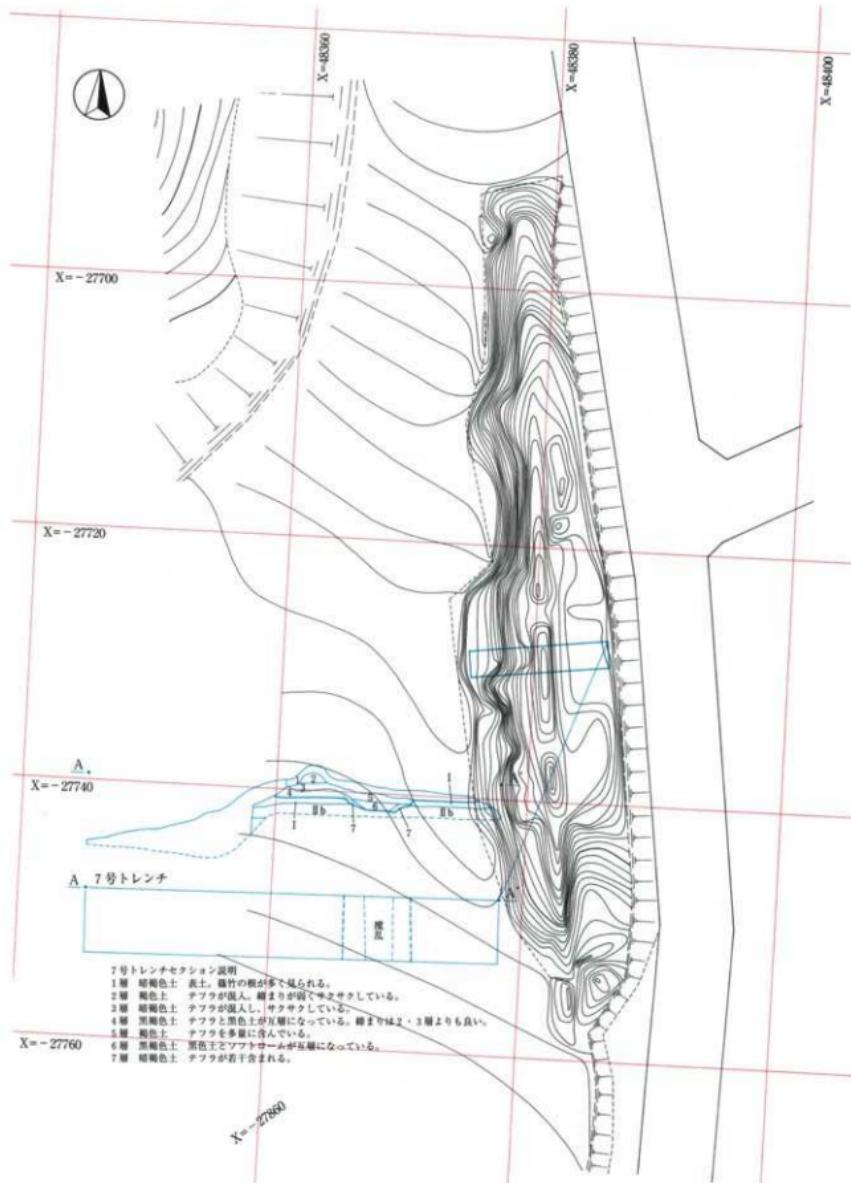


第9図 西三里塚所在馬土手（B区）北側6号トレンチ内検出遺構平面及びセクション図 S=1/160,  
地形測量図 S=1/400

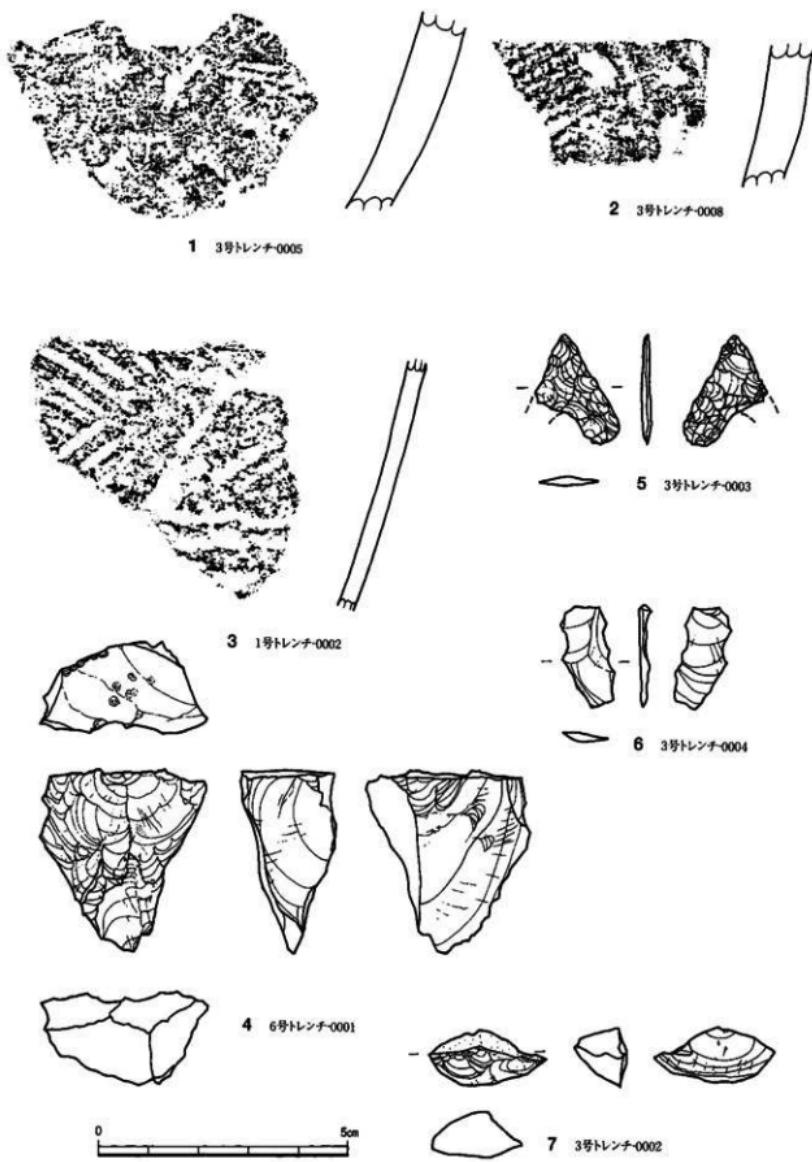
**6号トレンチ（第9図）** B区5号トレンチの北西60m程に位置するトレンチである。馬土手があつたと思われる位置に若干の盛り土の残骸が認められるものの、北東側は搅乱気味でプライマリーな状況で残ってはいない。セクションA-A'の1層は表土で暗褐色土である。これらは馬土手の本体部分を壊して埋められた土と思われる。2層～3層は馬土手を構築した時の土層であると思われる。幅4.0m前後の規模と推定される。2層はハードロームブロックが多量に混入している黄褐色土である。3層は黒色土とソフトロームがブロック状に混入している暗褐色土である。

### 3 馬土手（C区）

**7号トレンチ（第10図）** C区のはば中央部分を東西方向に2.0m幅で調査したトレンチである。途中で途切れるものの、馬土手B区の北側に一直線上に続く馬土手である。迅速図（第2図）で見る限りでは西側から入る谷頭部分では途切れていた可能性もある。セクションで見る限りではB区内では最も残りが良い。東側の馬土手に伴う溝は現在道路となっているが、土手と平行して南北方向に続くものと思われる。また西側部分は削平された後に廃棄物を埋め戻している。セクションA-A'の1層は表土で篠竹の根の搅乱が著しい暗褐色土である。2層～4層までは馬土手本体部分である。2層は新期テフラが混入しており、締まりが弱くサクサクしている褐色土である。3層は新期テフラが混入しており、サクサクしている暗褐色土である。4層は新期テフラと黒色土が互層になっており、締まりは2層、3層よりも良い黒褐色土である。5層～7層は馬土手に掘られた搅乱のセクションである。5層は新期テフラを多量に含んでいる褐色土である。6層は黒色土とソフトロームが互層になっている黒褐色土である。7層は新期テフラが若干含まれている暗褐色土である。



第10図 西三里塚所在馬手（C区）7号トレンチ内検出遺構平面及びセクション図 S=1/160,  
地形測量図 S=1/400



第11図 西三里塚所在馬土手出土遺物実測図

## 第3章 まとめ

### 縄文時代～奈良・平安時代

今回の西三里塚所在馬土手の調査では、確認調査面積216m<sup>2</sup>について実施した。遺物は縄文時代の早期、後期の土器片や石器など、奈良・平安時代の土師器の破片が数点、主に馬土手の盛り土中から検出されたものであった。空港付近の遺跡分布状況から判断すると、周辺地域にも縄文時代早期を中心とする包含層が広がっていたと考えられる。

### 中・近世

今回の調査によって以下のことが判明した。本遺跡は佐倉七牧の取香牧のうちの一部であることが明らかである。西側のA区の馬土手が最も残りが良く全長53.0m、幅8.0m（両端の溝を含む）、高さは2.5m程度あり、ローム層と黒色土を交互に積み重ねて構築されている。また、何度か作り直された形跡も窺われる。B区では一部溝部分が残っている箇所も存在していたが、全体としては非常に遺存状況が悪い。C区では馬土手本体の一部が残っているもののA区ほど良好に残ってはいなかった。取香牧についての記載を以下に抜粋し、まとめて代えたいと思う<sup>1)</sup>。「佐倉牧は、小間子牧、柳沢牧、高野牧、内野牧、取香牧、矢作牧、油田牧の七牧からなっている。このうち、小間子牧、取香牧、矢作牧、油田牧の四牧は佐倉四牧と呼ばれ、小金（現松戸市）の綿貫夏右衛門が野馬奉行として幕府から管理をまかされていた。また、柳沢牧、高野牧、内野牧の三牧を佐倉三牧といい、佐倉藩が幕府からその管理をまかされていた。」ということで取香牧は幕府直轄の牧であったことがわかる。また、牧の構造については「これらの牧場の周囲すなわち、耕地と牧場の境には、野馬土手、野馬堀が設けられており、野馬の里入りを防いでいた。牧場の内には、野馬捕りの必要性から、捕込み場に野馬を追いやるように勢子土手が何本か作られていた。これらの土手は、大体高さ二間、底辺二間半、上辺一間の台形で作られていた。」とあり、今回調査された馬土手は築造当時の原形を失いかなり改変を受けているものと思われる。このことは、遺存状態の良好なA区の馬土手においても同様である。また、今回調査された馬土手が牧場の周囲に巡らしたものか、あるいは捕込み用の勢子土手なのかは不明である。さらに柵列が実際の柵かどうかは疑問であり、記録には計画的な植林があったとされており、場所によっては植栽である可能性も残されている。

さらに隣接地域での馬土手の調査が進展すればこの時期の馬土手を巡る生活の一端が明らかになってくるものと思われる。

注1) 富里村史 通史編 昭和56年 発行

# 写 真 図 版



西二里駅跡在馬手と周辺地形

西二里駅跡在馬手と周辺地形（平成15年度）



馬土手（B区）  
調査前風景  
北から



馬土手（C区）  
調査前風景  
南から



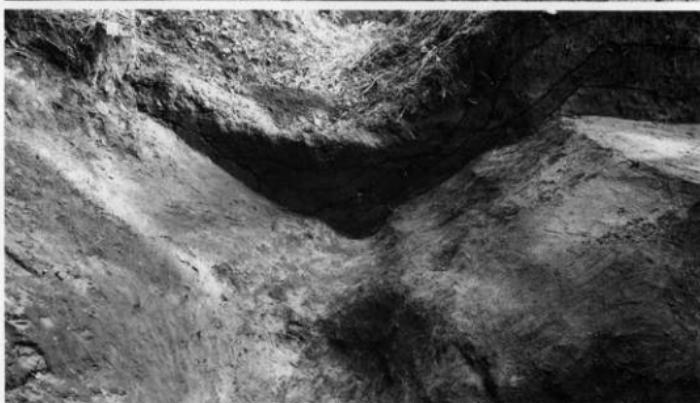
馬土手（C区）  
調査前風景  
北から



馬土手（A区）  
1号トレント  
セクション  
南壁



馬土手（A区）  
1号セクション  
溝（東側）  
全景



馬土手（A区）  
1号トレント  
道路状況  
構溝（東側）  
全景





馬土手（A区）  
1号トレンチ  
溝（西側）  
全景



馬土手（A区）  
2号トレンチ  
セクション  
(南壁)



馬土手（A区）  
2号トレンチ  
溝（東側）  
全景

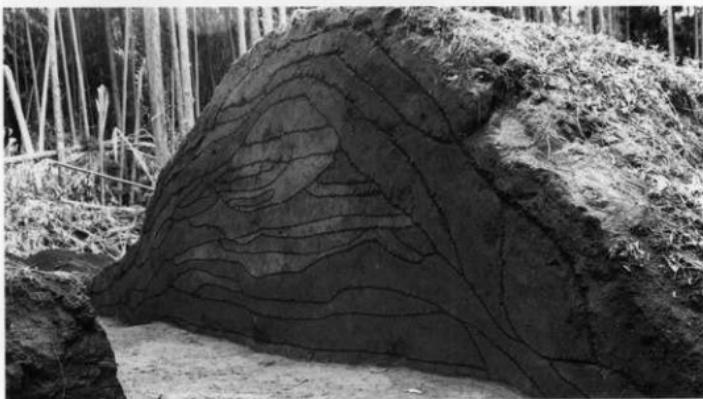
馬土手（A区）  
2号トレンチ  
溝（西側）  
全景



馬土手（A区）  
3号トレンチ  
セクション  
(北壁)



馬土手（A区）  
3号トレンチ  
セクション  
(北壁)



馬土手（A区）  
3号トレンチ  
溝（東側）  
道路状遺構  
全景



馬土手（A区）  
3号トレンチ  
溝（西側）  
全景



馬土手（B区）  
4号トレンチ  
溝全景





馬土手（B区）  
5号トレンチ  
セクション



馬土手（B区）  
6号トレンチ  
セクション



馬土手（C区）  
7号トレンチ  
セクション





1



2



3



4



7



5



西三里塚所在馬土手 出土遺物写真

抄 錄

ふりがな	にしあんりづかだいにだいがえちまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ						
書名	西三里塚第2代替地埋蔵文化財調査報告書						
副書名	成田市西三里塚所在馬土手						
卷次	1						
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告						
シリーズ番号	第478集						
編著者名	西口 徹						
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター						
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地 2						
発行年月日	西暦2004年3月25日						
所取遺跡名	所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
にしあんりづかしょせい 西三里塚所在 馬土手	ちばけん 千葉県 ゆりたしにしあんりづか 成田市西三里塚 245-1ほか	211	35度 44分 30秒	140度 23分 00秒	20020416～ 20020430	3,400m <sup>2</sup>	代替地の 造成
所取遺跡名	種別	種別	主な遺構		主な遺物	特記事項	
西三里塚所在 馬土手	馬土手	中・近世	馬土手・溝・道路状遺構		縄文時代土器・ 石器	佐倉七牧の一つ取香牧の一 部であろう。	

千葉県文化財センター調査報告第478集

西三里塚第2代替地埋蔵文化財調査報告書1

—成田市西三里塚所在馬土手—

---

平成16年3月25日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 新東京国際空港公团

千葉県成田市木の根字神台24番地

新東京国際空港内

財団法人 千葉県文化財センター

千葉県四街道市鹿渡809-2

印 刷 株式会社 ラ イ フ

千葉県成田市東和田595

---